

米農家に向けた環境保全の取組周知チラシ

- 環境負荷低減に向けた取組が営農の1つの選択肢となるよう、具体的取組とその取組が経営に与えるメリットを示しつつ、支援予算や制度についてまとめたチラシを作成。東北農政局HP掲載に加え、各種会議等、様々な機会を捉えて農業者・事業者へ情報発信。

水田には、洪水防止や多様な生きものをはぐむなど環境にやさしい側面もありますが、温室効果ガス(メタンガス)の排出など環境に負荷を与えている側面もあります。環境負荷を減らす取組は、追加収入やコスト削減など経営面へのプラス効果もあります。

こんなことから取り組みます！

中干し期間を1週間以上延長

土壌診断に基づく適正施肥

予防・判断・防除を組み合わせた総合防除

温室効果ガス(メタンガス)が約3割削減されることに加えて、温室効果ガスの排出削減量を販売(Jクレジット中干し延長)することで、**10aあたり2,000~4,000円程度**の収益を想定！

土壌診断に基づく可給態リン酸含量が10mg/100g以上なら、リン酸施肥を**50%削減※**可能！

予防・判断・防除を組み合わせ化学農薬の使用量を最低限に抑え経済的な被害が生じるレベル以下に病害虫の発生を抑制することにより**化学農薬コスト低減**につながる可能性！

Jクレジット 中干し延長の詳細はコチラ(農水省HP)

土壌診断に基づくリン酸等削減の詳細はコチラ(農研機構HP)

水稻の病害虫に関する技術情報の詳細はコチラ(農水省HP)

※農研機構「土壌診断、施肥法改善、土壌養分利用によるリン酸等の施肥量削減にむけた技術導入の手引き」より

環境にやさしい農業を**補助事業等で支援**します！！(裏面へ)

東北農政局

環境にやさしい農業に取り組む皆様を応援します！

<令和7年度の主な支援措置>

	支援措置	支援対象となる取組	支援内容
補助事業	環境保全型農業直接支払交付金	国際水準の有機農業や化学肥料・化学合成農業を原則5割以上低減する取組と合わせて行う対象取組(堆肥の施用等)。	取組内容に応じて交付 詳細はこちら(農水省HP)
	みどりの食料システム戦略推進交付金のうちグリーンな栽培体系加速化事業	化学肥料・化学農薬の使用量の低減等、環境にやさしい技術と省力化技術の検証等(ほ場・機械借上げ費、資材費、土壌診断等)。	グリーンな栽培体系の検討: 定額(上限300万円又は360万円) スマート農業機械導入: 導入費用1/2以内(上限1,000万円)
	国内肥料資源利用拡大対策事業(ソフト事業)	肥料の国産化に向けた、堆肥や下水汚泥資源などの国内資源肥料利用の効果実証等(資材購入、土壌分析、機械導入等)。	分析・実証等:定額 機械導入:1/2以内
金融	農業改良資金	みどりの食料システム法に基づく計画認定を受けた農業者が、計画の実施に必要な設備投資を行う場合。	償還期間:12年 利率:無利子
税制	みどり投資促進税制(法人税・所得税の特例)	みどりの食料システム法に基づく計画認定を受けた農業者が、化学肥料又は化学農薬の使用低減に資する機械設備等を取得した場合。	特別償却 機械等:取得価額×32% 建物等:取得価額×16%

<関連する制度>

	方法論	取組の内容	見込まれる収益
J-クレジット	水稻栽培における中干し期間の延長	所定のプロジェクト登録を行い、中干し期間を直近2か年の実施日数の平均より7日間以上延長すれば、水稻作付け面積と水田の所在地・排水性・施用有機物に応じた削減量分のクレジットが認証。クレジットを他者へ販売することで収益を得られる。直近2か年の中干しの実施日数等の生産管理記録が必要。	仮にクレジットを1万円/tCO2で販売した場合、東北地域では4,000円/10a程度の収益を想定(取組可能期間は最大8年間)

環境にやさしい技術を紹介します！

● 環境負荷低減に資する栽培技術集【水稻】

生産現場において既に実践されている化学肥料・化学農薬の使用量の低減に資する技術を開き取り、代表的な技術とその技術のポイントをとりまとめました。

掲載先(農水省HP)

● グリーンな栽培体系の取組事例(東北農政局)

産地に適した「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する先端技術等」を取り入れた「グリーンな栽培体系」について、東北の取組事例をまとめました。

掲載先(農水省HP)

「みえるらべる」表示してみませんか？

「みえるらべる」とは、農産物生産における環境負荷低減効果を星の数で「見える化」して、商品に表示できるラベルです。化学肥料・化学農薬の使用低減や中干し期間の延長など、温室効果ガス削減や生物多様性保全の取組の効果に応じて、その貢献度を消費者に示すことができます。

詳細はコチラ(農水省HP)

裏面で支援策も紹介

チラシは以下のHPに掲載しています！



(東北農政局HPへリンク)

～水稲生産で取り組む～ 環境負荷低減取組事例集

- 東北地方では作付面積において水稲がその多くを占めるところ、水稲に照準を絞り、既に環境負荷低減に取り組んでいる地域にも、これから取り組んでみようと考えている地域にも、その取組内容の検討や実践にあたって参考として活用いただくことを目的に事例集を作成。



生産者やJA、地方自治体の

➤ 有機農業

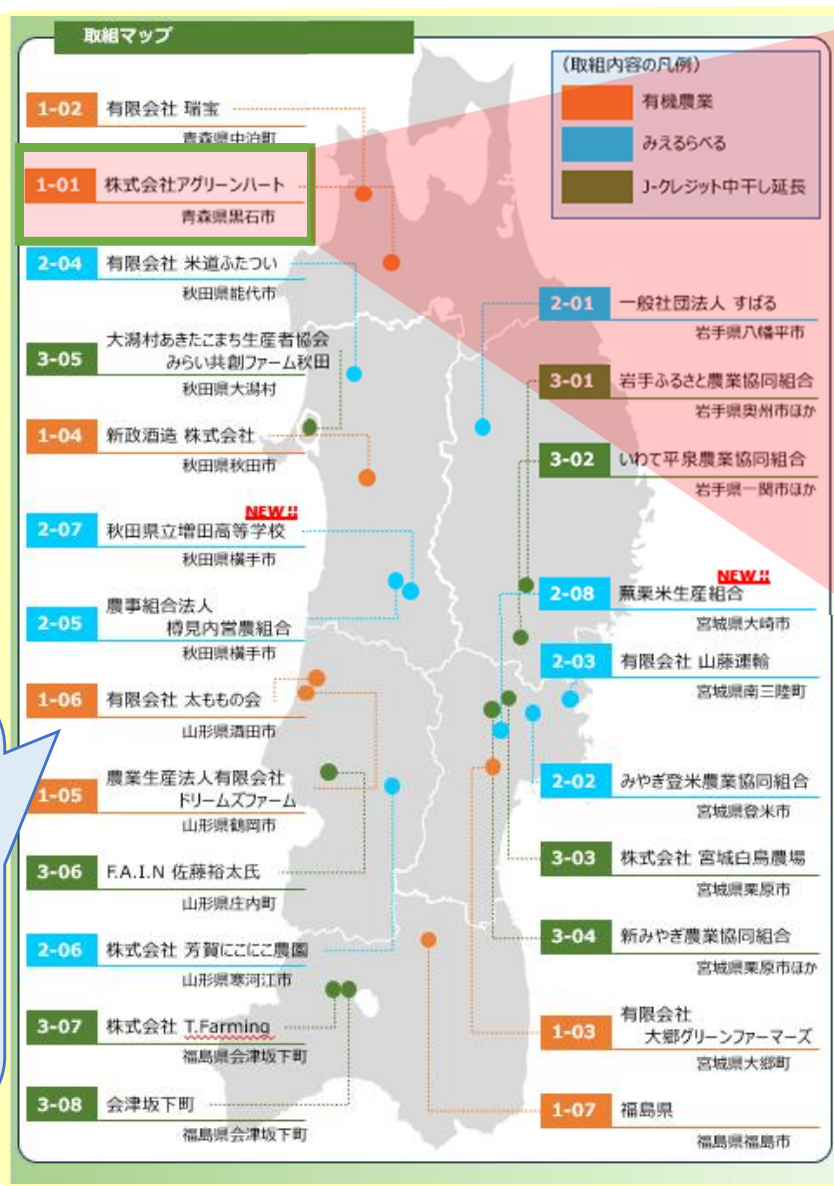
➤ みえるらべる

(環境負荷低減の見える化)

➤ Jクレジット中干し延長

の取組事例を掲載。

(R7.4現在：23事例)



01 株式会社アグリーンハート

生産者

所在地

経営規模

有機農業に取り組んだきっかけ



水稲：35.1ha
うち有機：13.8ha
うち減農薬：21.3ha
大豆(有機)：38.7ha
アスパラ(有機)：0.1ha



有機農業の様子 (7/4田植え・10/18の稲刈り)



○ 親戚が病気で専業主婦となり、身体に不自由のある者も農業で活躍できる場を作りたいと、雇用の活用を開始した。雇いが雇用の収益性を高めるために、「生産性が低くても、売値を上げる」ことを目指し、有機農業を始めた。

取組状況

○ 2年間大豆を栽培した後に、1年間無肥料で水稲を栽培している。好気・嫌気条件のサイクルで稲にも影響している。

○ 田植えを遅くすることで水浸し期間と除草期間を短くし、機械除草2回のみでの有機栽培が可能。水溶性アミノ酸肥料主体の土づくり設計により成長が早く、気候変動にも強い。(R6産 青丹の産地(有機)の収量：450kg/10a)

○ 保育園児や小中高校生等に有機農業に慣れてもらうべく、農業体験や講話活動も積極的に取り組んでおり、体験を通じて食育で消費拡大・ファンづくりに取り組んでいる。

今後の取組方針

○ 令和10年までに自社耕作面積を100%有機農業にする。

○ 地域の未利用資源活用を拡大し、地域内循環型の産でも低コスト・低リスクで簡単に取り組める有機栽培技術確立する。

事例毎に、

➤ 取り組んだきっかけ

➤ 取組状況(規模や効果、収益)

➤ 今後の取組方針 を掲載。

事例集は右のQRコード、もしくは以下より検索！



東北 環境にやさしい米づくり

検索